

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、
「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが
月々税込み **8,000円** (※) に含まれています。
さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。
※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)



※9年カーリースの場合
ボーナス月加算あり

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません

もろコミのお申込み・お問い合わせは

にんぎのくまが **コ ミ コ ミ**

年中無休・24時間受付 **0120-29-5353**

カーコンカーリース

〒108-0075 東京都港区港南 2-11-19 大滝ビル



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任

車社会の課題が、日に日に明確になってきている。エネルギー効率化の問題と、自動運転の二つで未来のピラミッドが形成されてきたが、ここに来て、その軸が車自体のデータの収集と分析、といった車の頭脳へ変わってきた。従って、この分野に強いアメリカのIT会社をはじめ、世界各国の先端的な情報技術会社をどう取り込むかが、緊急課題である。

その主導権を確保するため、トヨタ自動車系の4社が、新会社を設立した。米・ボストン・コンサルティング・グループによると、2017年の世界の自動車業界の営業利益は、約25兆円。しかし、次世代型の車の普及によって、2035年になると約2倍の40兆円以上になるそう。現在、車の部品や、エンジン車の販売など、既存の自動車販売会社がこの利益を占めているが、2035年時点では、約半分に低下する。つまり、自動運転車が主流になり車の運転をシステムが自動で行うようになるため、車の頭脳となる技術が企業の競争力を左右する。

自動運転車は、周囲の状況を把握する「認知」から始まり、車をどう動かすかという「判断」、アクセルやブレーキやハンドルを「制御」する、これが繰り返される。

「認知」の基本は、高度なセンサーや地図データ、渋滞情報などのデータの分析技術が鍵を握る。一方でカーコンビニ倶楽部グループが現在進めている「もろコミキャンペーン」なども未来につながる重要な一歩である。車は、「所有する」時代から「利用する」時代へと急速に変化している。GoogleやApple、Facebookといった米国の巨大企業が自動車産業に接近するのは、個人のデータを握るためだ。

カーコンビニ倶楽部のネットワークの先には、何百何千万人ものお客様が存在する。常日頃の私たちの業務となっている車検や保険の取り扱い、さらには車の修理やメンテナンスなどで繋がっているお客様とは、車社会の未来を共にシェアしていくことを考えれば、最高のポジションにいると言える。時代が変わり、テクノロジーが進化しても、一番重要なのは、結局顧客とのリレーションなのである。